

今回のヒアリング事項

1. ケミカルリサイクル事業者

(ヒアリングの際にご説明いただきたい項目)

現行のペール品質を前提として、他工程利用プラの発生量の減少等、再商品化工程中の環境負荷、コストや再商品化製品の品質について、現状はどうなっており、また、今後それぞれの程度改善が可能か。

環境保全上の効果や経済性等の向上のため、ペールに関し品質等どのような改善を望むか。改善された際には、再商品化製品の品質とコストはどの程度改善するのか。

材料リサイクルで発生した他工程利用プラスチックを利用する場合の問題点は何か。

上記以外にケミカルリサイクル手法の高度化に向けてどのような主体にどのような協力を求めたいか。

(ヒアリングの際に資料提出の形で意見提出をお願いしたい項目)

再商品化技術の現状

- ・ 再商品化製品は何に代替しているのか。燃料としての石油石炭か。
- ・ 容器包装プラスチックに含有されているもののうち再商品化されているのは何か。水素か炭素か別のものか。
- ・ どのような形態変化をして再商品化しているのか（固体のままなのか熔融か等）
- ・ 化学的にはどう位置付けられるか（原料中酸素の還元なのか、酸化燃焼なのか等）
- ・ 他工程利用プラスチックの利用の現状とその高度化の方向性。

現在ケミカルリサイクルが代替している技術（還元、油化等）の、今後の開発動向。

上記のほか、環境負荷やコストの削減にはどのような措置、取組が効果的と考えるか。

審議会における L C A 等のリサイクル手法の評価に関する議論への意見はあるか。

上記のほか、現在の容器包装リサイクル制度への要望はあるか。

2. 特定事業者

(ヒアリングの際にご説明いただきたい項目)

リサイクルのしやすさの観点から、容器包装の製造に当たって材質、構造の選択等をどのように配慮してきたか。

材料リサイクルの高度化の観点から、例えば、以下のような取組は可能か。

- ・ P E T ボトルに見られるような、特定の容器包装の素材の各社共通化
- ・ 非発泡 P S の P P、P E による代替化
- ・ 容器包装の素材から P V C、P V D C を極力排除すること
- ・ 色つきトレイを廃止し、白色トレイとして回収することによる容リプラスチック中の P P、P E 含有量の向上
- ・ 金属混入容器包装の減少

- ・ 容器包装への複合材使用の減少
- ・ インク・顔料の使用の削減や紙・シール等の分離容易化

複合素材の容器包装を他のもので代替するなど、材料リサイクル事業者の意見を聞きつつ、容器包装の設計を行うことは可能か。

以下のような識別表示の高度化を行うこととした場合の問題点はあるか。

- ・ 住民にわかりやすいようより大きくすること
- ・ プラ表示を更に細分化すること
- ・ 不適切な表示を防ぐための何らかの措置を講じること

特定事業者における再商品化製品利用製品の開発状況に応じた率先購入

(ヒアリングの際に資料提出の形で意見提出をお願いしたい項目)

審議会における L C A 等のリサイクル手法の評価に関する議論への意見はあるか。

上記以外の現在の容器包装リサイクル制度への要望。